中津城跡　24次調査　スロープ新設に伴う発掘調査報告書

中津市文化財調査報告書　第115集

2023　中津市教育委員会

中津市文化財調査報告書　第115集

中津城跡
24次調査

スロープ新設に伴う発掘調査報告書

2023
中津市教育委員会

中津市文化財調査報告書　第115集

中津城跡
24次調査

スロープ新設に伴う発掘調査報告書

2023
中津市教育委員会

序

私たちのまち、中津市には往時を偲ばせる遺跡が数多く残っております。今回調査報告書を刊行いたします、中津城跡もこうした遺跡の一つです。中津城の築城や城下町の整備は、黒田官兵衛孝高によって先鞭が付けられました。それから約260年間、細川氏、小笠原氏、奥平氏によって整備拡張が行われ、その後の中津市の発展につながっています。

中津市教育委員会では、遺跡内での工事の際は文化財保護法に基づき必要な場合、発掘調査を行っております。また、市民の皆さまに文化財の価値を伝えるため、遺跡の保存・整備についても力を入れております。

最後になりましたが、今回の調査にあたってご協力いただいた方々に御礼申し上げますとともに、これからも中津市の埋蔵文化財行政にご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和5年3月31日

中津市教育委員会
教育長　栗田　英代

例　言

一、本書は大分県中津市教育委員会が平成25年度に実施した中津城跡24次調査の発掘調査報告書である。

一、調査体制は以下のとおりである。

平成25年度

調査責任者	廣畑　　功	中津市教育委員会教育長
調査事務	井上　信隆	中津市教育委員会教育次長
	川西　州作	中津市教育委員会文化財課
	田中布由彦	中津市教育委員会文化財課管理係長
調査員	高崎　章子	中津市教育委員会文化財課文化財係長
	丸山　利枝	中津市教育委員会文化財課文化財係主任
	荻　　幸二	中津市教育委員会文化財課文化財係嘱託

令和4年度

調査責任者	栗田　英代	中津市教育委員会教育長
調査事務	黒永　俊弘	中津市教育委員会教育次長
	瀬戸口千佳	中津市教育委員会社会教育課長
	速水　　誠	中津市教育委員会社会教育課管理・文化振興係主幹
調査員	高崎　章子	中津市教育委員会社会教育課歴史博物館館長
	花崎　　徹	中津市教育委員会社会教育課歴史博物館副館長
	丸山　利枝	中津市教育委員会社会教育課歴史博物館博物館・文化財係主査

一、遺構確認調査を荻が、本発掘調査は丸山が担当した。

一、現場作業は下記の皆さんの協力による。
井上ミツル、井上理絵、今永夏樹、甲斐嘉夫、塩谷絹子、祐成本文、友綱淳一、中坂真基子、福成誠一、松村たか子

一、整理作業、遺物実測、図面浄書は下記の皆さんの協力による。
栗田真弥、岩崎弘子、奥塚恭子、吉上かおり、木村風里、久原彩、高榎裕美、土橋厚子

一、遺構写真、遺物写真は丸山が撮影した。

目　　次

第１章　調査にいたる経過 …… 1
第２章　周辺の環境 …… 2
　　第１節　地形と考古学的環境
　　第２節　中津城跡の調査歴
第３章　調査成果 …… 5
　　第１節　調査概要
　　第２節　遺構
　　第３節　遺物
第４章　まとめ …… 14

挿図目次

第１図　調査区位置図（1：10000）
第２図　中津城跡周辺の地形と包蔵地（1：40000）
第３図　中津城跡の調査歴（1：2500）
第４図　遺構全体図（1：200、1：400）
第５図　遺構分布図①（1：50）
第６図　遺構分布図②（1：50）
第７図　遺構堆積状況図（1：40）
第８図　中津城跡24次調査区出土遺物図1（1：3）
第９図　中津城跡24次調査区出土遺物図2（1：3）

表目次

表１　中津城跡調査歴
表２　遺構観察表１
表３　遺構観察表２
表４　遺構観察表

写真図版

写真１　遺構検出状況（北東から）
写真２　中津城跡24次調査区全景（北東から）
写真３　中津城跡24次調査区全景（南西から）
写真４　ＳＤ－１（東から）
写真５　ＳＤ－１（北から）
写真６　ＳＫ－５（東から）
写真７　ＳＫ－１（東から）
写真８　ＳＫ－６完掘（北から）
写真９　ＳＫ－６（北から）
写真10　ＳＫ－11（東から）
写真11　ＳＫ－12（東から）
写真12　出土遺物

第１章　調査にいたる経過

中津城跡周辺では近年、城郭ブームに伴う観光客が増加している。中津市では、この状況に対応するため、中津城跡、中津城下町遺跡周辺の整備を進めている。中津川沿いには、黒田官兵衛が古代の唐原山城跡から運んできた石材で組まれた石垣が良好に残っている。この場所へのアプローチを改善するため、二ノ丁から中津川沿いへ誘導するスロープを新設することとなった。

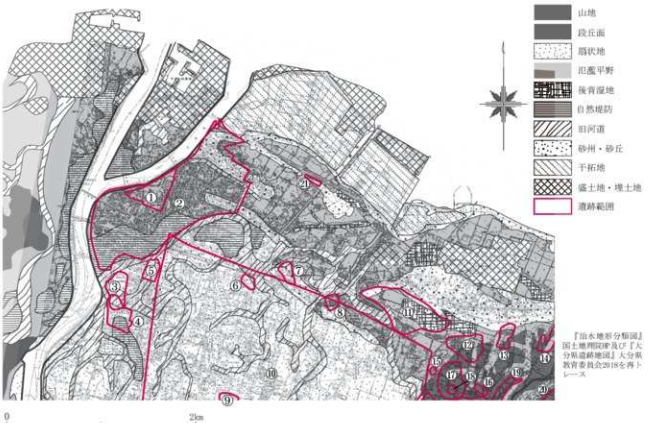
平成25年7月24日付けで、中津市長　新貝正勝から埋蔵文化財発掘の通知が提出された。同年8月19日付けで大分県教育委員会教育長から遺跡の取扱いについて発掘調査の通知を受け、8月21日に遺構確認調査を行った。調査の結果、建設予定地には良好に遺構が残っていることが確認できたため、8月22日から本発掘調査に着手し、9月13日に調査を終了した。調査面積は、90㎡である。

第１図　調査区位置図（1：10000）

第２章　周辺の環境

第１節　地形と考古学的環境

中津城跡は、中津市を貫流する山国川が周防灘へ注ぐ最下流域に立地する。河川の下流域には様々な地形が分布するが山国川下流域も例外ではなく、扇状地、氾濫平野、後背湿地、自然堤防など河川によって形成された地形、波浪、沿岸流による砂の堆積（砂州）などが確認できる。幾筋かの砂州が示すような海岸線の移動や、人為的な干拓や埋土によって陸化した地形もある。時代ごとの土地利用を見ると、縄文時代の集落である高畑遺跡（③）は山国川旧流路沿いの扇状地端部に営まれた。旧流路上に立地する豊田小学校校庭遺跡（⑤）では弥生時代の土器が出土していることから周辺に集落の存在が考えられる。古墳時代前期・中期の集落は中津城下町遺跡内（②）の南側にある微高地や高畑遺跡（③）沖代地区条里跡（⑩）の扇状地で確認されている。奈良・平安時代の遺跡は少ないが、沖代地区条里跡内の微高地で確認されている。中世城館跡である宮永城跡（④）中臣城跡（⑥）石神城跡（⑦）一ッ松城跡（⑧）は微高地、扇状地、砂州上に立地している。近世になると山国川の支流、旧流路である蛭川を外堀として利用した中津城跡（①）中津城下町遺跡（②）が氾濫平野を中心に展開する。



①中津城跡　②中津城下町遺跡　③高畑遺跡　④宮永城跡　⑤豊田小学校校庭遺跡　⑥中臣城跡　⑦石神城跡
⑧一ッ松城跡　⑨沖代小学校校庭遺跡　⑩沖代地区条里跡　⑪東浜遺跡　⑫合馬遺跡　⑬ガラヌノ遺跡
⑭全徳遺跡　⑮鴻ノ巣遺跡　⑯土屋敷遺跡　⑰大道端遺跡　⑱亀山古墳　⑲塚肌遺跡　⑳舞手川流域遺跡
㉑古濱東遺跡

第２図　中津城跡周辺の地形と包蔵地（1：40000）

第2節　中津城跡の調査歴

中津城跡ではこれまで27次におよぶ発掘調査が行われている。本丸の石垣修理、保存整備に伴う発掘調査では、各期の石垣や、櫓台、礎石建物、中世城館跡などが発見され、三ノ丁の元美術館建設予定地、中津市歴史博物館建設に伴う発掘調査では御水道が出土している。また南部小学校のプール改修に伴う発掘調査では、中堀とおかこい山を確認している。今回の調査区が所在する二ノ丁の発掘調査では幕末絵図の北門、樫ノ木門、中堀にあたる地点の確認調査を行っている。門跡は確認されていないが、中堀と考えられる溝状遺構を確認している。遺物は19世紀代のものが多く、溝状遺構から出土した明治30年代頃の陶磁器から、この頃までは堀が存在していたと判断されている。

第３図　中津城跡の調査歴（1：2500）

表1　中津城跡調査歴

番号	所在地	調査面積(㎡)	調査内容		調査原因	報告書
			遺構・遺物	時代		
1	中津市1257-16	500	石垣・堀・井戸	近世・近現代	官庁建設	1993「中津城跡（二の丸）」中津市教委第12集
2	中津市1279		石垣	中近世	確認調査	
3	中津市1260、1282、1278-1、1279-9	814	石列・櫓跡・石垣		水路改修・確認調査	2002「中津城本丸南西石垣」中津市教委第27集
4	中津市1290他	276	土坑	近世	美術館建設	
5	中津市1278-1	200	石垣・櫓台跡	近世	石垣修理	2003「中津城本丸南西石垣Ⅱ」中津市教委第30集
6	中津市1278-1	465	石垣・建物跡	近世	保存整備	2003「中津城本丸南西石垣Ⅱ」中津市教委第30集
7	中津市1290他	1101	土坑・御水道	近世	芸術文化センター建設	
8	中津市1278-1他	700	石垣裏込・堀の底の確認	中近世	石垣修理	2004「中津城本丸南西石垣Ⅲ」中津市教委第34集
9	中津市1278-1	600	豪族居館の一部・石垣	中世末	保存整備	2004「中津城本丸南西石垣Ⅲ」中津市教委第34集
10	中津市1278-1	580	居館・石垣	中近世	保存整備	2005「中津城本丸南西石垣Ⅳ」中津市教委第37集
11	中津市1278-1他	510	石垣	近世	石垣修理	2005「中津城本丸南西石垣Ⅳ」中津市教委第37集
12	中津市三ノ丁1309	112.5	建物・礎石・土坑	近世	保存整備	
13	中津市1257-12	188	柱穴	近世	フェンス改良工事	
14	中津市1278-1他	2170	石列・礎石	中近世	保存整備	2006「中津城本丸南西石垣Ⅴ」中津市教委第41集
15	中津市1278-1他	900	石垣	?	石垣修理	
16	中津市1279他	700	石垣	江戸	石垣修理	
17	中津市1278-1他	250	石列・堀	江戸	保存整備	2007「中津城（Ⅵ）他」中津市教委第42集
18	中津市1279他	350	石垣・堀	江戸	石垣修理	
19	中津市1278-1他	300	堀・瓦	江戸	保存整備	2008「中津城（Ⅶ）」中津市教委第45集
20	中津市1278他	580	堀・石垣	江戸	保存整備	
21	中津市1235-2	30	石垣	陶磁器・瓦(近世)	県道拡幅	2011「中津城跡Ⅷ」中津市教委第54集
22	中津市1278-1	100	石垣	なし	保存整備	2011「中津城跡Ⅷ」中津市教委第54集
23	中津市1309	20	おかこい山石積み	木製品	プール建設	
24	中津市1257-6他	90	柱穴・土坑	中世	スロープ建設	
25	中津市1272-1、1273-3		石垣・溝・階段	近世	保存整備	2014「中津城跡25次調査」中津市教委第70集
26	中津市1235-5他		堀	堀の中の既存水路　近世～近代の遺物	水路改修	立会調査
27	中津市1290	281.25	井戸、土坑、石列、溝状遺構	中近世	博物館建設	

第３章　調査成果

第１節　調査概要

調査区は中津城跡二ノ丁地区に位置する。本丸の北側にあたり、中津川の堤防に沿う。「中津城下絵図」（1838 ～ 1843年）には「御用屋敷」、幕末～明治の絵図には「御花畑跡」と記載がある場所である。近代に入ると学校や催事場などに利用されたため、遺構は大きく壊されている可能性があった。

調査は中津川の堤防に沿って約35ｍの調査区を設定し、重機による掘り下げを行った。その結果、南東部分（堀側）は10ｍほど後世の撹乱が入り遺構が確認できなかった。この範囲は掘削深度も1.5ｍを超え、危険なことからすぐに埋め戻した。確認した遺構は、柱穴・土坑・溝状遺構（落ち込み？）である。柱穴は多数確認したが、建物の復元には至らなかった。

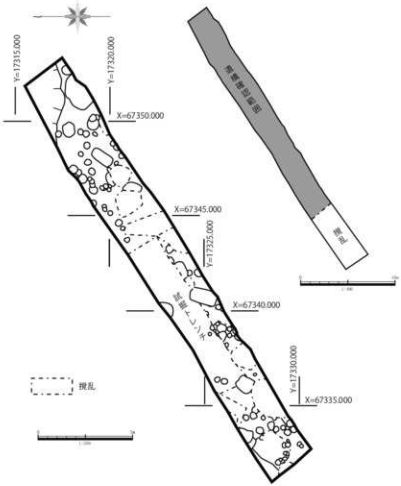
基本層序

Ⅰ層＝表土、人頭～拳大の円礫を多く含む。Ⅱ層＝整地層、灰色粘土。厚さ10㎝で平行に堆積する。堅くしまる。Ⅲ層＝整地層、灰色シルト。厚さ20 ～ 30㎝で平行に堆積する。Ⅳ層＝上面が遺構検出面。白色粗砂、30㎝下で径5 ～ 10㎝の円礫の堆積となる。Ⅰ層は調査区全面で確認したがⅡ、Ⅲ層は全面で確認したわけではない。

出土遺物

出土遺物は、13世紀後半～江戸時代のものを確認している。江戸時代のものは少数である。瓦器碗の破片が多く出土していることから、13世紀後半～ 14世紀におさまる年代を考えている。一方、撹乱からは近現代のものに混じって完形の土師器皿など江戸時代の遺物が出土している。撹乱はⅠ層から掘り込まれたものであり近現代の建物基礎等と考えられ、江戸時代の遺構は著しく破壊されているものと判断した。

写真１　遺構検出状況（北東から）



第４図　遺構全体図（1：200、1：400）

第２節　遺構

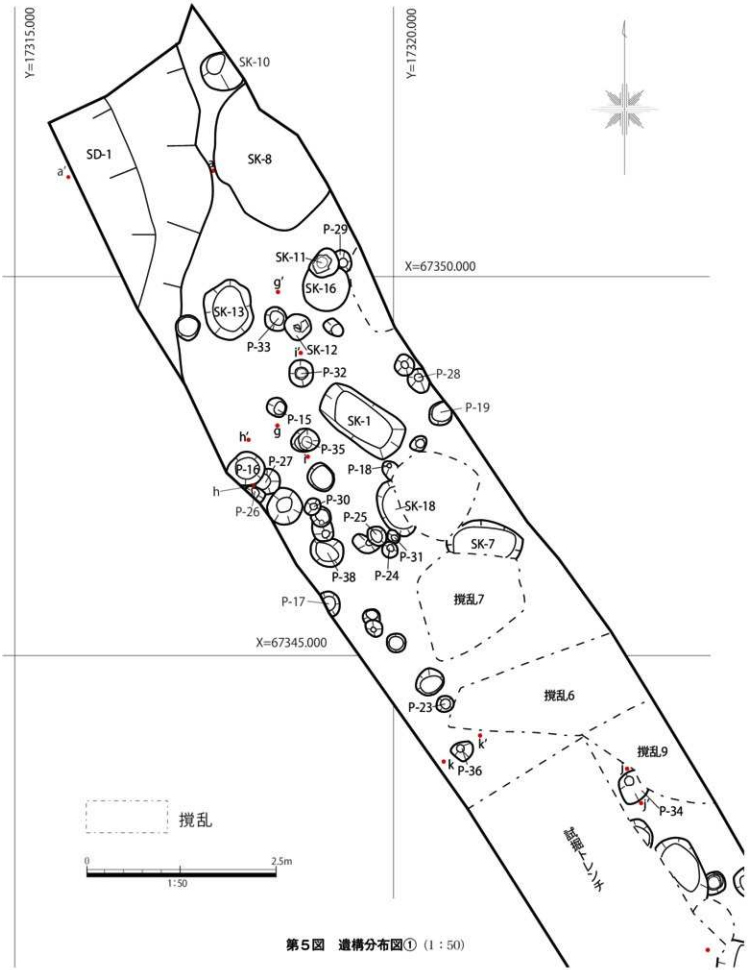
遺構は、土坑18基、ピット46基、溝状遺構１条を確認したが、このうち多数のものが現代の撹乱を受けている。おもな遺構を報告する。

ＳＫ－１（第５図）

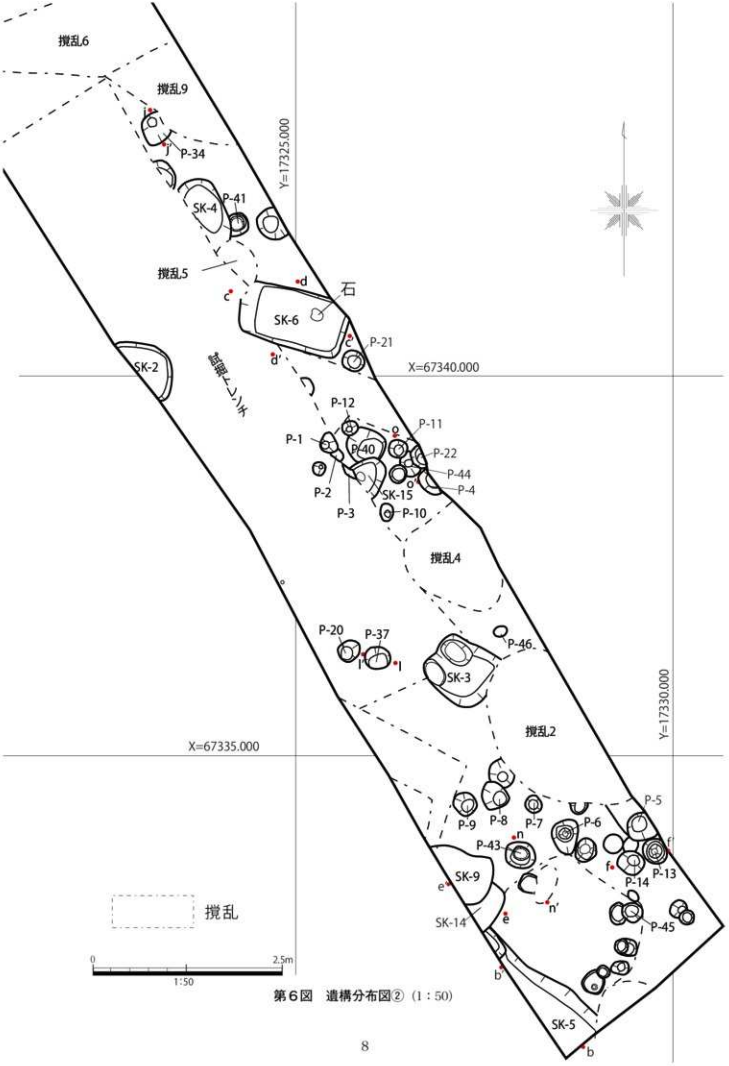
長軸1.2ｍ、短軸0.56ｍ、検出面からの深さ0.3ｍ、平面形は長方形を呈する。断面形は底面平坦で緩い角度で立ち上がる。堆積土は黒灰色土に径５㎝程度の円礫を含む単層で一度に埋められた堆積と考えられる。遺物は、土師器、備前焼小壺、染付、色絵が出土し、江戸時代中期の年代が与えられる。

ＳＤ－１（第５図）

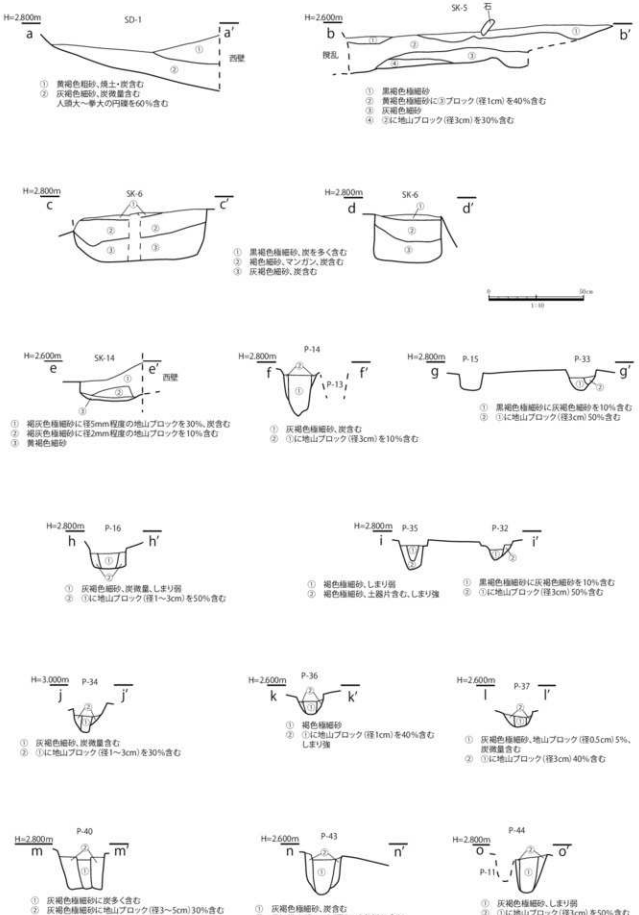
長軸4.6ｍ、短軸1.7ｍ、深さ0.6ｍで調査区外へ延びる。堆積状況は灰褐色細砂に人頭大～拳大の川原石を多く含む堆積である。形状・堆積状況から溝状遺構と考えている。遺物は、土師器、瓦質摺鉢、備前甕、内面劃花文青磁、景徳鎮白磁、染付など、13世紀代～江戸時代にいたる年代のものが出土している。



第５図　遺構分布図①（1：50）



第６図　遺構分布図②（1：50）



第７図　遺構堆積状況図（1：40）

ＳＫ－５（第５図）

長軸1.68ｍ以上、短軸0.6ｍ以上、検出面からの深さ0.15ｍ、平面形は不整形で調査区外へのび、断面形は西壁では緩やかに立ち上がり、東側は急角度に立ち上がる形状である。ＳＫ－14、撹乱に切られる。堆積状況は自然堆積と考えている。瓦質土器、土師器摺鉢の破片が出土していることから遺構は中世に構築されたものと考える。

ＳＫ－６（第５図）

長軸1.44ｍ、短軸0.78ｍ、深さ0.58ｍの長方形を呈する土坑である。断面は直に立ち上がる。底面に径20㎝ほどの平な川原石を置く。北隅を撹乱に切られる。平面形、断面形から土坑墓である可能性もあるが、堆積状況や出土遺物からは積極的に判断できない状況である。遺物は、瓦質土器、土師器、須恵質甕、土錘が出土し、時期は中世を考えている。

ＳＫ－11（第５図）

径0.4ｍの円形土坑で、検出時に陶器甕の底部が載った状態で検出した。甕を取り上げ後発掘したが4㎝しか土が残っていなかった。江戸時代の埋甕である。

ＳＫ－12（第５図）

径0.34ｍの円形土坑で、ＳＫ－11と同様の状況であった。江戸時代の埋甕である。

柱穴

柱穴は調査区全面に確認している。調査区の形状もあり建物の復元には至らなかったが、確認した数や重複する状況から考えると、建物が重複して存在したことが考えられる。検出された柱掘り方の大きさは0.2 ～ 0.5ｍ、深さは標高2.1 ～ 2.5ｍまで掘り込んでいる。確認した46基の内19基で検出時に柱痕跡を確認した。半裁して柱痕跡が確認できたのはこの内11基である。遺物は少ないが、土師器、瓦質土器、瓦器、須恵質土器、青磁などが出土していることから大半が中世の建物であったと考えている。

表２　遺構観察表１

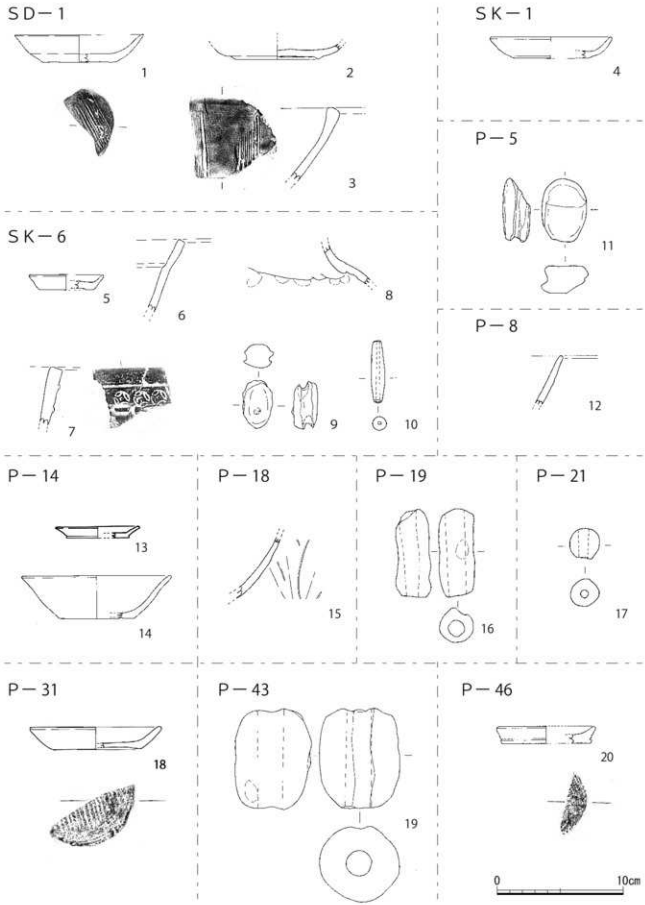
遺構				遺物	備考
№		規模（長軸×短軸×深さｍ）	形状	種類	
ＳＤ	1	4.6×1.7×0.6（調査区外へのびる）	不整形	内面調花文青磁、景徳鎮白磁、備前甕、志野？、染付、瓦質摺鉢、土師器	調査区外に続く
ＳＫ	1	1.2×0.56×0.3	長方形	備前小壺、染付、色絵、土師器	
	2	0.76×0.7×	隅丸方形		調査区外に続く
	3	0.9×0.8×0.17	隅丸方形	瓦質土器甕、瓦器碗、土師器、須恵質土器	
	4	0.94＋α×0.4＋α×0.04	楕円形		撹乱に切られる
	5	1.68＋α×0.6＋α×0.15	？	瓦質土器、土師器摺鉢	調査区外に続く
	6	1.44×0.78×0.58	長方形	瓦質土器、土師器、須恵質甕、土錘	撹乱に切られる
	7	1.0×0.44＋α×0.14			撹乱に切られる
	8	1.86×1.0＋α×0.07	不整形	瓦質土器、瓦器、土師器	
	9	0.86＋α×0.66×0.35	隅丸長方形		
	10	0.6×0.46×0.25	楕円形		
	11	φ0.4×0.04	円形		埋甕
	12	φ0.34×0.01	円形		埋甕
	13	0.8×0.6×0.05	楕円形		
	14	0.66＋α×0.16＋α×0.09	？	瓦質壺、瓦器碗、陶器皿	調査区外に続く
	15	0.5×0.4×0.1	楕円形		
	16	φ0.62×0.15	円形		
	17	浅い落ち込み	不整形		調査区外に続く
	18	0.76×0.28＋α×0.18	楕円形		撹乱に切られる

表3　遺構観察表2

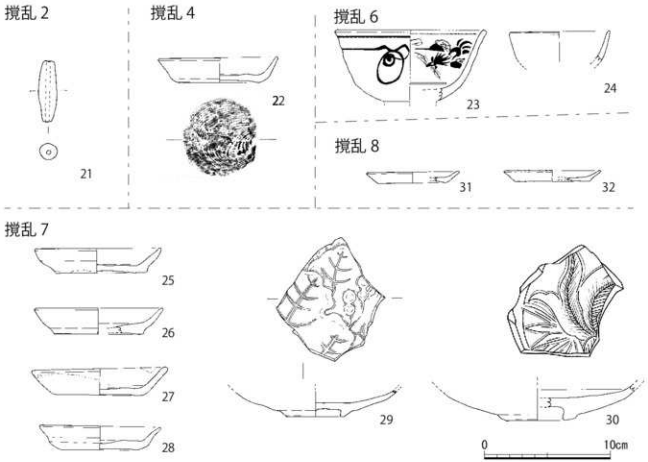
遺構				遺物	備考
No.		規模（長軸×短軸×深さm）	形状	種類	
P	1	φ0.26×0.47	円形	土師器	
	2	大部分が重複規模不明	円形	青白磁？	P－1に切られる
	3	φ0.026	円形		
	4	φ0.38×0.44	円形	瓦質甕、瓦器碗、土師器	一部調査区外
	5	φ0.42×0.34	円形	土師器、土錘	
	6	0.44×0.34×0.46	円形	土師器	
	7	φ0.24×0.28	円形	土師器	
	8	φ0.38×0.14	円形		
	9	φ0.32×0.26	円形		
	10	φ0.22×0.2	円形	土師器	
	11	φ0.24×0.27	円形	備前、瓦質土器、土師器、須恵質土器	
	12	φ0.24×0.27	円形	土師器	
	13	φ0.34×0.39	円形	土師器	
	14	φ0.34×0.41	円形	瓦質土器、古代土師器、土師器	柱痕跡あり
	15	φ0.26×0.15	円形	剥版摺染付、瓦器碗	P－3・40と重複
	16	φ0.44×0.25	円形	瓦質摺鉢他	柱痕跡あり
	17	φ0.34×0.21	円形	瓦質土器	
	18	φ0.2×0.2	円形	蓮華文青磁、瓦質土器、土師器	攪乱に切られる
	19	φ0.3×0.28	円形	瓦質土器、須恵質土器、土錘	一部調査区外
	20	φ0.3×0.17	円形		
	21	φ0.3×0.25	円形		
	22	φ0.3×0.22	円形	瓦器碗	
	23	φ0.24×0.2	円形	瓦質土器、土師器	
	24	φ0.22×0.07	円形	瓦器碗、土師器	
	25	φ0.27×0.18と0.34×0.18×0.17の切りあい	円形	瓦質土器、土師器	
	26	φ0.26×0.36	円形		
	27	φ0.34×0.17	円形		
	28	φ0.32×0.13	円形	須恵質摺鉢、土師器	
	29	φ0.3×0.25	円形		
	30	φ0.22×0.1	円形	瓦質土器、土師器、須恵質土器	
	31	φ0.18×0.37	円形	土師器	
	32	φ0.36×0.33	円形	土師器	
	33	φ0.3×0.2	円形	瓦器碗、土師器	柱痕跡あり
	34	0.4×0.28＋α×0.29	円形	土師器	柱痕跡あり
	35	φ2.8×0.27	円形		柱痕跡あり
	36	φ0.3×0.19	円形	土師器	柱痕跡あり
	37	φ0.34×0.18	円形		
	38	φ0.44×0.15	円形	瓦質土器、土師器	
	39		円形		
	40	φ0.5×0.41	円形	土師器、須恵質甕	P－12に切られる
	41	φ0.28×0.36	円形	青磁、土師器	
	42	φ0.22×0.18	円形	瓦質土器	
	43	φ0.34×0.42	円形	土錘	柱痕跡あり
	44	φ0.34×0.42	円形	土師器	P－11・22に切られる
	45	φ0.28×0.43	円形	瓦質土器、土師器	
	46	φ0.18×0.29	円形	土師器	

第3節　遺物

24次調査で遺構から出土した遺物は、土師器、須恵質土器、瓦質土器、陶器、磁器であるが、ほとんどが小破片であり時期の比定は困難である。遺物の時期は、古代～江戸時代の所産である。相対的に瓦器碗、瓦質土器、須恵質土器の出土が多く、瓦器碗の高台（摩滅著しいが）の形状から判断すると、14世紀代を中心とする時代であると考えられる。



第８図　中津城跡24次調査区出土遺物図１（1：3）



第９図　中津城跡24次調査区出土遺物図2（1：3）

表4　遺物観察表

番号	遺構名	種別	器種	法量（cm）（）は復元または残存長			備考
				口径	器高	底径	
				長さ	幅	厚さ	
1		土師器	皿	(10.4)	2.2	(6.0)	底部糸切りのち板目
2	SD－1	瓦質土器	鍋?	-	(1.2)	(6.6)	
3		瓦質土器	擂鉢	-	(5.9)	-	1.6cm幅に6本の溝で1単位
4	SK－1	土師器	皿	(9.8)	1.7	(6.0)	
5		土師器	皿	(6.0)	1.2	(4.6)	
6	SK－6	土師質土器	鍋	-	(5.7)	-	外面にスス付着
7		土師質土器	柄	-	(4.3)	-	内面に指おさえ跡多数
8		瓦質土器	火鉢	-	(4.6)	-	胴部上位に型押しの七宝文が並ぶ
9		土製品	土錘	3.8	2.4	1.8	
10		土製品	土錘	5.0	径1.1	-	
11	P－5	土製品	土錘	5.2	3.7	2.2	
12	P－8	青磁	碗	-	(3.8)	-	
13	P－14	土師器	皿	(6.8)	1.9	(5.0)	底部糸切り
14		土師器	坏	(12.0)	(3.4)	(6.0)	底部糸切り
15	P－18	青磁	碗	-	(4.9)	-	外面片彫りで蓮弁文
16	P－19	土製品	土錘	7.0	2.9	2.9	指おさえ跡あり
17	P－21	土製品	土錘	2.5	径2.4		
18	P－31	土師器	皿	(10.5)	(1.8)	6.9	底部糸切りのち板目
19	P－43	土製品	土錘	8.1	径6.1	-	外面に1条溝あり　指おさえ跡あり
20	P－46	土師器	皿	(8.0)	(1.4)	(7.0)	底部糸切り痕
21	撹乱2	土製品	土錘	5.9	径1.5	-	
22	撹乱4	土師器	皿	9.7	2.1	6.5	外側に1.2cm程の粗石が埋まる。楕円形に少しゆがむ。糸切り痕
23	撹乱6	陶器	碗	(12.1)	(5.6)	-	内：圏線、花文　外：圏線、花文　→花絵　透明釉
24		磁器	小杯	(8.2)	(2.4)	-	外：染付（水？）圏線　透明釉
25	撹乱7	土師器	皿	10.2	2	7.3	糸切り　楕円形に少しゆがみあり
26		土師器	皿（灯明皿）	(10.4)	2.1	(7.2)	スス付着
27		土師器	皿（灯明皿）	10.0	2.0	7.7	スス付着　底部糸切り痕
28		土師器	皿（灯明皿）	11.0	2.1	6.8	スス付着　底部糸切り痕
29		白磁	皿	-	(2.1)	(6.4)	墨痕無1640～50年？　唐市高台　見込み（菓？）
30		青磁	皿		(2.7)	(4.7)	淡佐見焼1630～80年代　花（牡丹？）の片切り線彫り　高台内に砂目あり
31	撹乱8	土師器	皿	(7.3)	0.9	(6.0)	糸切り痕
32		土師器	皿	(7.5)	0.9	(5.5)	糸切り痕

第4章　まとめ

中津城跡24次調査区は、中津城二ノ丁に位置する。調査前は近世の遺構が確認されると考えていたが、発掘調査の結果、遺構の大半は14世紀を中心とする時期のものであった。現代の撹乱からガラス片などと共に完形の土師皿（近世）や奥平家家紋瓦の破片が出土していることから、近世の遺構の大半は現代の建物基礎に破壊されていると考えられる。

土地利用について

今回の調査区では14世紀代を中心とする遺構・遺物が見つかり、近世以前の土地利用の一端が明らかになった。確認した柱跡は建物復元には至らなかったが、狭小な調査区にも関わらず多くが重複している状況であった。これは近接する位置での建物の建替えがあったと考えられ、長期的に宅地として利用された状況であろう。

24次調査区の地山はシルト～砂から成り、水はけが良好な土地で微高地の特徴を示している。周辺の地形条件を見てみると、第２図では中津城跡は氾濫平野に立地している。実際は山国川、中津川沿いには自然堤防が発達しているとみられ、金谷地区から中津城跡まで微高地となっている。この自然堤防上では城下町遺跡の発掘調査で古墳時代前期の遺物が見つかっている。今回の調査区も同じ自然堤防上に立地すると考えられる。

城内での調査では本丸の調査で、黒田入部前（15～16世紀）に方形居館が築かれていたことが分かっている。居館の溝からは16世紀中～後半の遺物が出土し、この時期に溝が埋められたことを示している。一部15世紀代の遺物も混入し、居館について概報では、大友氏支配下の城であった可能性を示唆している。『黒田家譜』には、黒田官兵衛が入部にあたり当地にあった尾畑氏の居城を修築したとある。

江戸時代以後の土地利用について、『中津城跡2』に所収の絵図を見てみると、1838～1843年に描かれたと考えられる「中津城下絵図」では「御用屋鋪」、幕末～明治に作成されたと考えられる「中津城旧地図」には「御花畑跡」の語が見える。今回の発掘調査区ではこれらの土地利用を示す明確な遺構は確認していない。

《参考文献》

貝原益軒編著『黒田家譜』歴史図書社　昭和55年

中津市教育委員会2004『大池南遺跡　神代地区条里跡矢永地区・五唯地区　中津城跡本丸南西石垣（Ⅲ）中津市文化財報告　第34集』

中津市教育委員会2011『中津城跡2　中津市文化財報告第53集』

写真２　中津城跡24次調査区全景（北東から）

写真３　中津城跡24次調査区全景（南西から）

写真4　ＳＤ－１（東から）

写真5　ＳＤ－１（北から）

写真6　ＳＫ－５（東から）

写真7　ＳＫ－１（東から）

写真8　ＳＫ－6完掘（北から）

写真9　ＳＫ－６（北から）

写真10　ＳＫ－11（東から）

写真11　ＳＫ－12（東から）

写真12　出土遺物

報 告 書 抄 録

書名	中津城跡24次調査
副書名	スロープ新設に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	中津市文化財調査報告書
シリーズ番号	第115集
編集者名	丸山利枝
編集機関	中津市教育委員会
所在地	〒871-8501　大分県中津市豊田町9番地10　Tel:0979-22-4942
発行年月日	2023/3/25

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積	調査原因
中津城跡24次調査	大分県中津市1257番地3他	44203	203001	33° 60′ 71″	131° 18′ 64″	平成25年8月22日～平成25年9月13日	90㎡	スロープ新設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中津城跡24次調査	城跡	近世	溝状遺構 土坑 柱跡	土師器 瓦質土器 陶磁器	中世の集落遺跡

要約	絵図では「御用屋鋪」「御花畑跡」となっている。 近世の遺構の大半は、現代の掘乱に破壊されている状況であった。

中津城跡24次調査

スロープ新設に伴う発掘調査報告書

中津市文化財調査報告書　第115集

2023年３月25日

発行　中津市教育委員会

印刷　㈱川原田印刷社